

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年11月1日
タイトル	水土里レポートが繋ぐ「くわい」出前授業！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年9月29日（金）福山市立旭丘小学校5年生54名が小学校音楽室で出前授業を受けました。旭丘小学校では10年前から校庭で福山市の特産物である「くわい」の栽培をしておられましたが、今年初めて水土里レポートで他校の出前授業の様子をご覧になり水土里ネット福山へ連絡してくださいました。「農家の方の生の声を聞きたい」という要望にお応えし、水土里ネット福山の理事で福山くわい出荷組合の元組合長の枝廣^{えだひろ}義春^{よしかる}さんに出前授業を依頼しました。



重要なポイントはしっかりメモします！



みんな真剣に話を聞いています！

出前授業の主な内容

- ・くわいは、約1,000年前中国から伝来した。
- ・福山市では120年前に福山城のお堀に植えられ、約60年前から本格的に栽培がはじまった。
- ・当時は寒さが厳しく収穫も洗浄も手作業だったため非常に厳しい作業だったが、近年は温暖化の影響からか田んぼの水が凍ることがなくあまり寒いと感ない。
- ・約60年前にくわい出荷組合ができ、約50年前に本格的な共同出荷が始まる。
- ・約30年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり収穫作業が3～5倍速くなった。
- ・くわいの収穫の時は、まず茎を刈り取る。それから、ポンプで水圧をかけて掘る。
- ・今は、くわいロボットがある。レンコンを収穫する機械のノズルを改良してくわい用にしている。
- ・くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類
- ・収穫が終わると正月から土作りをし土に栄養を吸収させ、6月中旬から7月中旬にかけて植付けをする。
- ・植付けするくわいは、前年の収穫時に2SやSのくわいを取っておいて冷蔵庫で保管しておき、植付前に冷蔵庫から出して植える。冷蔵庫から出すとすぐに芽と根が出てくる。
- ・くわいの芽は1m以上に成長、約1000本に1本の割合で白い花を咲かせる。非常にめずらしくこの花から実がなり種でくわいを作ることもできる。
- ・くわいの栽培は、害虫の駆除と夏の暑さに応じて、肥料をすること。毎年気象条件が変わるので、その年によって対応が違ってくる。
- ・収穫は11月中旬からで、毎年11月13日頃が初出荷で、紅白の幕を張って初出荷を盛大に行っている。



くわい独特のほろにがさがあっておいしい！おかわりがほしい！福山の水を飲みたいよ！



説明の後、子ども達から「どんな気持ちでくわいを作っておられますか。」と質問があり、枝廣理事は「安心安全を心がけて、くわいを食べてくれる人が笑顔になるようにと思って作っています。」と答えられました。

つぎに水土里ネットについて質問があり、正式名称は「福山市土地改良区」と言い、愛称で「水土里ネット福山」を使っていること、水・土・里の意味は農業をする上で水・土が重要であり農業を営むことは「ふる里」を育むことだと説明しました。そして、ため池や農業用水路はとても重要な施設だが、転落すると非常に危険なため転落しないように気をつけてほしいと伝え、福山市上下水道局の災害備蓄飲料水「福山の水」を配布しました。

その後、くわいの6次産業化を実体験してもらおうと「くわいっこ」というお菓子を配り試食してもらいました。これは「くわい」をそのままの形でフライにしたサクサクしたお菓子で、子ども達に大好評でした。

出前授業が終わると校庭のミニたんぼへ行きました。校庭の片隅を直接掘り、田んぼの土を入れてくわいが植えてありました。もう10年植えておられるそうで、年々くわいが小さく、少なくなっているそうです。今年も真ん中は立派に育っていましたが周りは少し小さいようです。



鮮やかな緑の矢じりの形の葉が風に揺れ
水面がキラキラしていました。



枝廣理事より「これからなら液肥を使うといい」とアドバイスを受けて、先生と子ども達から「収穫までの2カ月半しっかり栽培するぞ」という気持ちが伝わってきました。くわいは、12月下旬に収穫し5年生が調理をして全校児童で食べるそうで、今から楽しみにしているそうです。

今回は、水土里レポートをきっかけに出前授業の依頼をいただき新たな交流が生まれました。今後もしっかり水土里レポートを掲載し、21世紀土地改良区創造運動を展開していきたいです。